



豊橋で子育てする育休パパ

二橋 弘樹さん(32歳)

柗斗くん(4歳)、愛ちゃん(2歳)



行事への参加や、 成長を見守れるのがうれしい。

奥さんが4年間育休を取得した際、子育てに苦勞する姿を見て「変わるか?」と言ったのがきっかけで、育休を取得した二橋さん。最初の1週間は、社会から取り残される不安でいっぱいでしたが、近くに住む両親や奥さんのサポートで料理ができるようになったり、月1回バン教室に参加したりと、充実した毎日を送っているそう。「子どもたちの成長を毎日そばで見ることができたり、幼稚園の遠足に参加できたりと、うれしいことがたくさん。妻の気持ちも分かり、育休のおかげで家族の絆が深まりました。」と充実した顔の二橋さん。復職後も子育てと仕事の両立について前向きに考えています。「仕事に対する意識も良い方向に変わると思います。お父さん方が育休を取りやすい社会ができればうれしいですね。」



愛ちゃんが昼寝中に洗濯物を素早くたむ。

体を思いきり使って自宅の壁でホールドリングを楽しむ柗斗くん。



以前はできなかった料理も今では上達し、レパートリーも増えた。

豊橋で子育てして良かったこと

子どもの預け先がある

保育園の一時預かりや、ファミサボなどがあり、一人で悩まずにすむ。

パパでも行きやすい施設がたくさん

のんほいパークやここにこなど、パパと子どもだけで気軽に過ごせる施設がたくさん!

自然が多い

自然が多く、近所の子どもたちと自然の中で体を使っているのびのびと遊べる。

こんなサポートが魅力!

パパママ子育て講座

パパの育児支援があるのがうれしいです!

家族全員での子育て、特に男性の育児参加を支援するため、未就学児と家族を対象にふれあい遊びなどを開催。子どもとの絆を深めるとともに、親の役割やワーク・ライフ・バランスなどを学ぶことができます。



申し込み・問い合わせ

子ども未来政策課

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/18354.htm>



豊橋で子育てする外国人ママ

白藤 シンデレラさん (33歳)

亜南ちゃん(9歳)、二架ちゃん(7歳)

子どもの気持ちを尊重して “できる力”を最大限に伸ばす。

ソロモン諸島出身の白藤さんは、18歳の時、NPOの仕事で日本から来ていたご主人と出会い、結婚。23歳で長女を出産し、日本で子育てを始めた時は、日本の子育てに驚くことも多かったそうです。「日本のお母さんは、公園でも『危ない!気を付けて!』を連呼しますが、ソロモンではそんなことは一切言いません。危ないと自分で気付くことが大切です。」子どもが自分で判断することが、生きる力に繋がるというのが白藤さん流の子育てです。ソロモン諸島では自給自足の生活。白藤さんは魚の捕り方、ミシンの使い方、洗濯の仕方など、親の姿を見て覚えました。だからこそ、忙しい朝でも子どもが「料理を手伝いたい。」と言った時には手伝いをさせて、子どものできる力を伸ばしているそうです。



週に1回日本語教室へ通い、苦手な漢字を勉強中。亜南ちゃんに教えてもらうことも。

この夏5年ぶりにソロモン諸島マライタ島へ里帰り。子どもたちもソロモン諸島の自然に感動したそう。



豊橋で子育てして良かったこと

人が温かい

年配の方が気軽にバスや電車で声を掛けてくれたり、ママ友が情報を教えてくれたりする。

緑が多い

自然豊かなソロモン諸島に似て、豊橋は海や山が近くにあり、緑が多くとても住みやすい。

外国人も住みやすい

施設などでのサポートが厚く、また外国人と日本人との距離も感じにくい。

!! こんなサポートが魅力!

外国人母子保健相談

個々に合わせた丁寧な対応をしてくれます。

外国人の保護者(ポルトガル語、スペイン語、英語を話す方)を対象に、保健師と通訳が妊娠・出産・育児・子どもの発育、発達に関する相談に応じるほか、乳幼児の身体測定を行います。



申し込み・問い合わせ

子ども保健課 TEL.0532-39-9160

年9回・月曜日(祝日を除く)9:30~11:00※予約制

